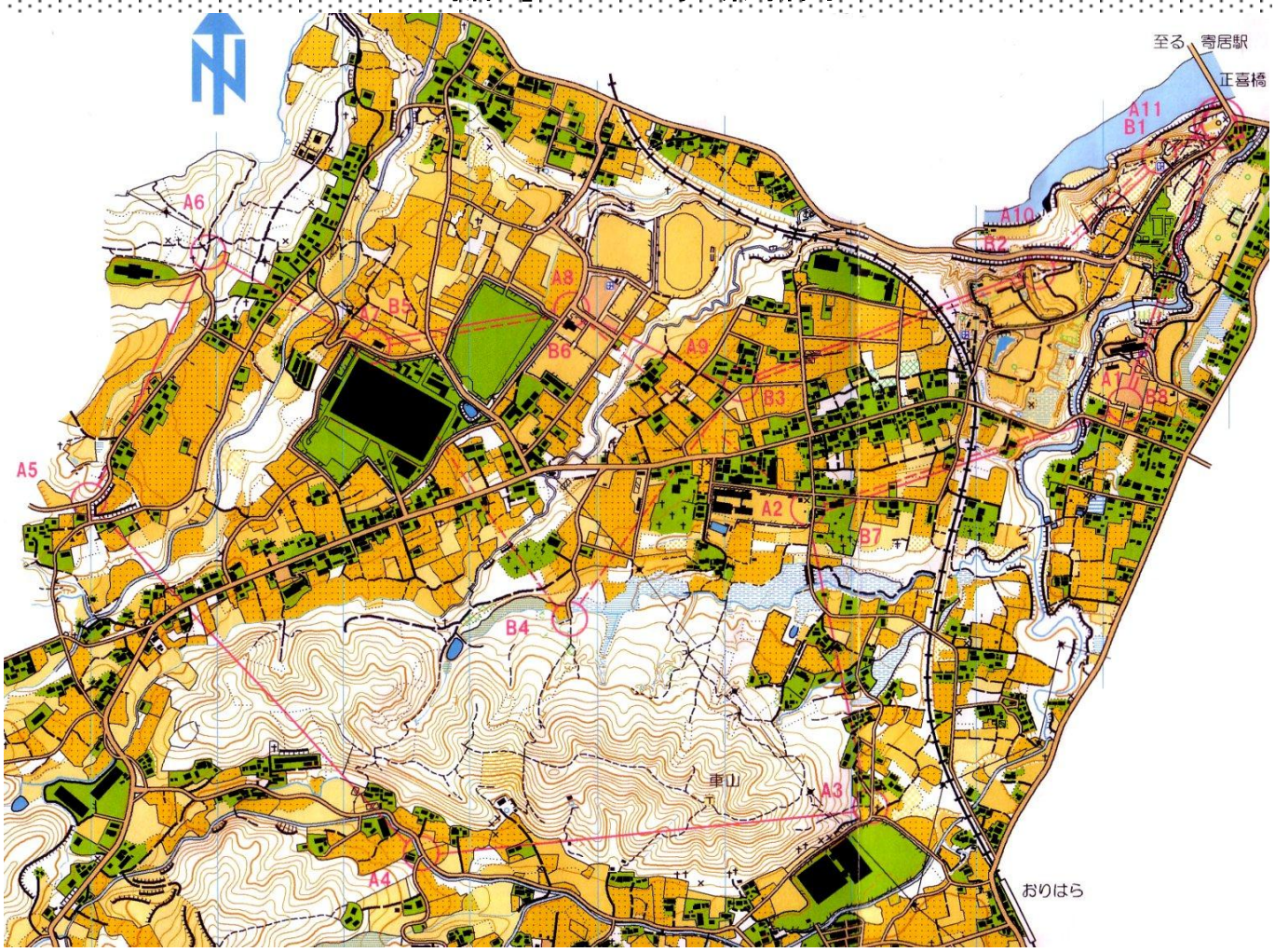
パーマネントコース紹介

のぼうの城の　となりの城

「寄居 A」コース　埼玉県寄居町

大高竜亮



豊臣秀吉の城攻めによって落城した鉢形城の跡地と静かな風景を巡る

「寄居 A」コース　埼玉県 No.12
JOA 公認 No.329　6.5km 11 ポスト

38 年前からのコース

本年もパーマネントコース紹介にお付き合いのほど、よろしくお願いします。

新年の歩き初めは埼玉県寄居 A コースです。寄居コースの開設は昭和 50 年 8 月のこと。その後昭和 59 年に B コースが追加されました。開設当初の「寄居」コースを昭和 53 年 10 月に、B コースは開設年の昭和 59 年に踏破しています。その後も小規模なコース変更を経ながら存続していた両コースは、平成 21 年 2 月に大きく生まれ変わりました。従来の A コースを一部残しつつも、全く異なる設定となったことや、前回から 29 年も経過していることもあり、新設コースを歩く気分です。

以前は実家の春日部から羽生を経由して秩父鉄道で寄居入りしましたが、今回は湘南新宿ラインで池袋から東武東上線へと乗り継ぎます。かつては終点寄居から秩父鉄道へも乗り入れていた東上線も乗り換えなしで行けるのは小川町まで。ここで編成の短い車両に乗り継いで寄居へと向かいます。

平成 25 年スタイル

駅窓口でマップを購入し、駅前の案内板でマスターマップからコースを写し取ってスタートしていた昔日の姿はすでにありません。マップはネットプリント、スタート地点も駅から 10 分南に歩く正喜橋南端に変更されています。スタート地点には案内板がありません。マップには「鉢形城復元地形模型〔地図上の〇〕の所より A、B コースをお楽しみください」と記載されています。

今回歩いたのは A コースですが、B コースは全 8 ポスト中 7 箇所が A コースと重複しています。全く独立していた 2 コース時代と比べると、B コースの興味は大きく減退しています。コースを独立させ、鉢形城中心のコースを「寄居町鉢形城跡」コース、もう 1 つをコース内の車山の乗せ、「寄居町車山」コースを銘打ったら楽しいのに、などと勝手な妄想が膨らみます。

鉢形城跡から出陣

このコースの最大の見所はスタート地点周辺の鉢形城跡。豊臣秀吉の小田原征伐における支城攻めで陥落した歴史が伝えられています。昨年、映画が公開されて話題となった「のぼうの城」に描かれた忍城（現：埼玉県行田市）の戦いが 1590 年 6 月 5 日から 7 月 17 日まで続いたのに対し、鉢形城の戦いはそれに先立つ 5 月 14 日から 6 月 14 日まで繰り広げられたそうです。3 箇所のポストはこの鉢形城史跡公園内に設置されています。

正午にスタートして A コースの第 1 ポストを目指します。ここは主要道路を進むのが最短路ですが、敢えて東に向かい、史跡東端のルートを選ぶことをお奨めします。外曲輪の芝地を抜け、土塁をたどるルートは城跡めぐりの雰囲気が味わえます。鉢形城歴史館が見えてくるとポストはもうすぐ。駐車場入口の門扉脇にひっそりと置かれています。

第 2 ポストからの 3 箇所は、昭和 53 年に歩いたコースの第 7～9 ポストを逆に歩く区間。とは言っても、9 歳の頃の記憶は全くありませんが…。深沢川を渡り、泉水坂を上ると JR 八高線の踏切に差し掛かります。この「第四立原踏切」に設置された警報機の赤色灯（警報灯）は交差点脇に設置された踏切であることら、どの角度からも灯火が確認できる全方位型踏切警報灯が導入されています。

いったん線路沿いに南下したのち、未舗装道路を西に向かいます。釜伏山を正面に眺めつつ進むと第 2 ポストのある折原小学校近くの道路に出ます。ポストは敷地内に立っていますので、平日は金網の外から眺めるのにとどめたほうが良いでしょう。

南に向かうと正面には車山が迫ってきます。車山には遊歩道も整備され、金比羅神社が鎮座するなど地元の方々には親しまれる存在のようです。山中のポスト設置が許可されなかったのか、コースは麓の道路をぐるりと巡るだけなのは少々残念なところ。折原駅に近い遊歩道入口で第 3 ポストを発見します。

山に登りたい気持ちをグッと抑え、車山南麓の道路を西へ。途中にある野菜の無人販売所には車山の観光マップも掲示され、観光としても盛り上げようという意欲の一端が伺えます。しかし、周囲は鳥のさえずりだけが耳に感じられるほどの静けさ。これが癒されます。第 4 ポストは水路沿いのごみ収集所脇に置かれています。

30 年の時を経て

歩きながら今回気になったのは桑畑が激減していたこと。寄居コースといえば1:25,000時代の地図には一面に桑畑の地図記号が分布しており、コースの印象もこの桑畑が真っ先に思い浮かんだものです。調べてみると、1968 年に埼玉県内で年間13,200トンの収繭量を誇っていたのが、海外からの安価な生糸の輸入や着物離れによる需要低迷で桑園面積、養蚕戸数が減少の一途をたどり、2007 年にはわずか 38 トンと風前の灯となっていたことが判りました。産業の衰退が町の活力も奪っているようで、寄居駅からスタート地点にかけて町並みもローカル色が色濃く浮かび上がっています。

そんな中、第 5 ポスト周辺には辛うじて桑畑が残っています。冬のこの時期は葉を茂らせた姿を見ることはできませんが、また暖かい季節には青々とした景色が見られることでしょう。民家脇の分岐を左に入ると突き当たりにポストは立っています。

激減する桑畑

老人保健施設逍遥の郷をめざして北進します。施設の手前で林間に分け入ると目の前に第 6 ポストがあります。このコースで最も OL らしい景色が楽しめる一帯です。旧 AB コースの第 4 ポストは更に西の奥にあり、特に旧 B コースはこの周辺の山道を楽しめる設定でした。現在のコースは東の尾根を過ぎるまでの短い区間で林は終了。少々物足りなさも感じます。

自動車用製品でお馴染みのボッシュの工場横にある上平・下小路公会堂に第 7 ポスト、広大な敷地の駐車場をひと巡りした先にあるカタクリ体育センター前に第 8 ポストを確認します。

川を回避するために南に回りこみ、第 9 ポストは民家の前に設置されています。そしてこの先でコース最後の桑畑を発見。枝を刈り込んだ姿は冬だからなのか、栽培を放棄したものなのかは判然としません。

復元四脚門から鉢形城跡へ

420 年前のまぼろし

いよいよコース最終盤。鉢形城跡へと帰っていきます。踏切を渡って諏訪神社の前を過ぎ、復元四脚門から城跡へと入ります。三の曲輪を歩き、歩道をたどって城山稲荷神社前で第 10 ポストを発見します。二の曲輪の参道にある鳥居は厳島神社と同じ型の両部鳥居。本体の鳥居の柱を支える形で稚児柱（稚児鳥居）があり、その笠木の上に屋根がある独特の形式です。

城山稲荷神社の両部鳥居

最終ポストは早めに本曲輪側に入り、交通量の多い主要道路から退避しましょう。ここはマップにも印刷されたところで、荒川を眺める景色のよい高台にポストが設置されています。ここからゴールは目の前です。

荒川を望む最終ポスト

34 年前に家族で 5 時間かけて歩いたコースも、今回は全行程 2 時間で終了。地図も大縮尺になり、初心者でも易しく回れるコースになりました。

終了後はスタート地点前にある鉢形茶屋で重ねせいろ蕎麦を食べ、寄居駅へと戻りました。

ポストはすべてピカピカ、埼玉県 OL 協会の本領が発揮された完璧なコースです。

「落ちなかった城」忍城ばかりではなく、「落ちた悲劇の城」鉢形城もパーマネントコースのお供にぜひ注目してみてください。

（2013 年 1 月 12 日 踏破）
（大高竜亮）